



13
1961
123

123



人間心観替操

寛政六年

へ13

1961

123-134

123
遠
1961
66

13
1961
123



主人が戯作の種より筆の袖より浮世を
 観く事愛おしく天を窺ふのおよむべ
 繪虚言の面白をのこして意味は深ま
 硯の海より深き人情の糸筋を引く操
 むら世々見み所乃目鏡より紅毛も
 口はくから娼妓ハラヤと袖屏風の味つ
 戯るもあつた双葉のいもむ心乃強形
 まさ目鏡の顔面を二海に中やと友との
 作の序中事あつり

寅の青陽

樹下石土誌









